

マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

第1部課程第134期と基本法制研修A第5期を卒業した後期特別研修生5名は、11月末からそれぞれの特別研修生業務が始まりました。

私が担当する第2部課程第190期は、基本法制研修A第5期の修了式後、間髪を入れずに始まりました。第2部課程は、政令指定都市及び中核市を除く市区町村等の幹部候補生を対象とした研修です。研修生のみなさんは、地方自治の第一線で活躍されているだけあって、エネルギーかつ経験・知識が豊富です。課程担当として、みなさんが更にパワーアップして派遣元に戻っていただけるよう、精一杯サポートさせていただきます。

ところで、令和2年10月頃から映画「鬼滅の刃」が公開され、大ヒットしています。共同で配給を手がける東宝とアニプレックスによれば、初日から24日間(11月8日まで)の動員数は約1,537万人、興行収入は約205億円と発表されており、令和2年度を代表するモンスターコンテンツとなりつつあります。

この流れを受けて私の周りでは「〇〇の呼吸」という表現が流行りました。麗澤寮7階の談話室(注：ソーシャルディスタンスを確保して利用しています)では、缶ビールを1晩で6本空けるビール柱、どんな焼酎にもめっぽう強く焼酎瓶を持参する焼酎柱など、「酒の呼吸」の使い手たちが毎晩たわいもない話をして、毎晩交流を深めてきました。わたしも何度か参戦し、柱たちに返り討ちにされましたが、今では良い思い出です。

基本法制研修A第5期の修了後、第1部課程第134期及び第2部課程第191期の研修生は、派遣元に帰りました。静かな麗澤寮7階、誰もいない談話室を見ると、皆の笑い声や楽しかった時間を思い出し、かけがえのない黄金の日々が終わってしまったのだと、ふと寂しい気持ちになります。

しかし、研修生同士の繋がりが途絶えたわけではありません。業務や新型コロナウイルス感染症が一段落すれば、皆の自治体へ行って皆に会えます。また酒の呼吸の使い手たちと会える日を楽しみにしつつ、私が今年度の研修で得た様々な体験を第2部課程第190期でも楽しんでもらえるよう、一生懸命頑張りたいと思います。



(写真：11月 寄宿舍出入門から)